

# 事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和6年3月18日

事業所名：中川の郷療育センター

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか。	○		・食事と排泄のスペースを分けて支援している。	
	②	職員の配置数は適切であるか。	○			・今後、利用人数が増加した際には、職員の増員が必要と思われる。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか。	○		・現在トイレ・浴室で排泄交換を実施することが多い。カーテンで仕切り、排泄スペースと物品置き場、車いす置き場などの配置を整頓し環境調整している。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		・カンファレンスを定期開催	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか。	○		・定期的にモニタリング等の面談の機会を設け、保護者の意向や要望を伺い支援計画や業務改善につなげている。	
	⑦	事業所向け自己評価及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか。	○			

	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		・県の福祉監査等を受審している。	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか。	○		・施設内の職員研修や外部研修に参加している。	
適切適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		・定期的に保護者と面談の機会を設け、ニーズ等の確認を行っている。 ・支援計画に基づいたモニタリングでのアセスメントを実施し、分析や反映に努めている。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか。		○		・現在は、個別での計画と評価を行っている。今後、アセスメントツールの使用を検討していく。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか。	○		・計画は立案されている、カンファレンスを行い統一した支援に繋げている。	
	⑭	活動プログラムを立案をチームで行っているか。	○		・保育士が中心となりプログラムを立案している。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・季節感を大切にし、季節の変化を感じてもらえるようなプログラムを立案している。	・年間予定からその月の予定を可視化できるように提示し固定しないように工夫していく。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか。	○		・感染防止対策を行いながら個別活動と集団での活動も計画し行っている。	

⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか。	○		・朝の申し送り時に、当日のスケジュールと職員の動きを確認している。	・支援内容や役割分担についても確認していく。
⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・その日の健康状態、活動内容及びその時の反応や様子を記録に残し、職員間で共有している。	・終了後に振り返りやカンファレンスを行い共有していく。
⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか。	○		・基本的に半年に一度、カンファレンスとモニタリングを実施し、判断している。	
㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか。	○			
㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか。	○		・他事業所とMSWを通し必要時、情報交換や情報共有を行っている	
㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか。	○		・当センターの担当医師や担当訓練士等との連携を大切にしている。 ・他事業所と必要時に情報交換や情報共有を行っている。 ・支援学校の教員等への情報提供を行っている。	
㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか。	○		・緊急時等には、当センターの外来を受診できる協力体制が整えられている。	・子どもの主治医と直接のやりとりはないが、保護者を通じて連絡体制を整えている。

関係機関や保護者との連携	②5	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・対象児がいる場合、保護者の同意を得て支援内容の情報共有と相互理解を図っていきたい。
	②6	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	・入学前には保護者の許可をいただいた後に、支援学校の教員による見学を受け入れ、利用児の様子を確認してもらっている。また、入学後には担当教諭と情報交換や情報共有を行っている。	
	②7	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。	○	・必要時、他事業所と情報交換や情報共有を行っている。	
	②8	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか。	○		
	②9	（自立支援）協議会子ども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○		・協議会の開催の情報など、委員から情報を得ていき、参加できる機会があれば参加していきたい。
	③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	・登園時や降園時に、保護者と直接お話しができ、お子様の様子を伝え合うことができている。共通理解に繋がられていると思われる。	
	③1	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っているか。	○	・保護者とは面談や送迎時のコミュニケーションにて支援を行っている。	・家族支援プログラムの支援は行っていない。

保護者への説明責任等	③②	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	・契約開始時にMSWから保護者に説明を行っている。	
	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○	・「児童発達支援計画」を示しながら説明を行い、保護者から同意を得られている。	
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	○		
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか。	○	・参観と茶話会を実施することで保護者同士が話し合う場となるように支援していきたい。	・父母の会の活動支援は行っていない。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○	・「通園だより」や「お知らせ」等で発信している。	・連絡体制を構築していく。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意しているか。	○	・退勤時、カルテ棚の施錠を徹底している。 ・書類を破棄する場合は、必ずシュレッターを使用している。 ・保護者と職員間で、面会者の確認をすることで、対応を統一している。	

	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・面談時以外にも、登園時や降園時を利用して、保護者と意志の疎通や情報伝達が行えるよう配慮をしている。	
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			・職員への周知とともに面談時やお知らせ、通信などを利用し保護者へ周知し発生を想定した訓練へとつなげていく。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・避難訓練に利用児と職員が一緒に参加している。 ・非常用持出袋や情報用紙のチェックを定期的に行っている。	
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		・利用開始前の面談時に情報の確認を行い、利用開始後にも定期的に保護者に状況を確認している。 ・連絡帳を活用している。	
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・利用開始前の面談時にアレルギーについての確認を行っている。 ・アレルギーのある利用児の場合、カルテの表紙に禁忌食物名や薬剤名を明記し、周知と対応を徹底している。 ・自宅で食べたことのない食物やメニューは、自宅で摂取をしていただいから、提供するように統一している。 ・栄養課と連携を図り、事故防止に努めている。	・かかりつけ医師の指示書はないが保護者からの聞き取りを実施。

④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全対策委員会に参加し事例について検討。</li> <li>・施設内の研修に参加。</li> </ul>	
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待防止委員会に出席。</li> <li>・施設内研修（倫理や虐待に関する）に参加。</li> </ul>	
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者、職員とどのような場合に行うか話し合い、「身体拘束に関する説明書」の保護者の同意と支援計画への記載を行っている。</li> </ul>	